

## 第2回 佐久新校再編実施計画懇話会まとめ

<b>日時</b>	令和3年(2021年)2月17日(水曜日) 18時00分～19時30分		
<b>場所</b>	長野県立武道館 大会議室		
<b>出席 (敬称略)</b>	花里 英一, 棚澤 晴樹, 山浦 みつ子, 相馬 栄治郎, 渡辺 仁, 白鳥 敬日瑚, 堀内 ふき, 吉岡 道明, 廣末 恵子, 吉沢 久, 吉岡 徹, 中島 瑞枝, 堀込 健一, 岩井 健二, 坂内 裕美子, 山崎 裕史, 山下 純一, 井出 豊彦, 木下 照美, 高橋 利子, 桃井 妃菜, 林 樹生, 柳沢 桜太, 久松 賢悟		
<b>欠席 (敬称略)</b>	小林 勉	<b>傍聴者</b>	5名
<b>事務局</b>	野沢北高校: 吉澤 教頭(事務局長), 清水 教諭 野沢南高校: 鈴木 教頭(副事務局長), 山口 教諭 県教育委員会: 駒瀬 高校再編推進室長, 上原 主幹指導主事, 高野 担当係長, 柳澤 主任指導主事		
<b>当日資料</b>	次第, 席図, 第1回佐久新校再編実施計画懇話会まとめ, 校地検討会議について, 講演資料		

### 会議事項

- (1) 第1回懇話会について(報告)
- (2) 校地検討会議について(連絡)
- (3) 「これからの高校教育のあり方」について
  - ① 講演「これからの高校に期待される学力」(講師: 上智大学総合人間科学部 奈須正裕 教授)
  - ② 質疑応答及び意見交換

### 主な質疑・意見等(要旨) ○=構成員の発言、⇒=奈須教授の発言

- テストがあるので生徒たちはすぐに答えを知りたがるが、普通の授業でも探究を進めねばならないと痛感。  
⇒教科の授業は相変わらずであることが多く、「探究」との乖離が起りがち。日々のテストや評価の仕方を変えていくと生徒さんたちも要素的な正解ではなく、概念的な理解や深い所に関心をお持ちになると思う。
- 「3つの方針」やグラウンドデザインがお題目的になっているところもある。どういう生徒を育てたいのか、どういう力をつけさせたいのか、もう少しかみ砕いて具体的なものを生徒に伝えたい。  
⇒長野県が全国に先じて「3つの方針」に取り組んでおられることは話題となっている。まず先生方が一歩を踏み出し、生徒がついてきて、ということを繰り返していくと学校全体の風土も変わる。
- ある講演の講師から「都会にいるから、田舎にいるから、ということではなくて、地方にいる子も世界で活躍できるようにしていかないといけない」とお聞きした。この点についてのお考えを伺いたい。  
⇒地方と都市に優劣があるという認識はிரない。佐久という地域に根ざして、どのような子どもを育てていくか。新校では、実社会との関わりの中で子どもを育てていく、世界に送り出していくというような学校設計ができるとよい。
- 主体的で対話的な深い学びが成り立つような授業を目指す方向性に大賛成。ずっと昔に生きていた方々もこのような学びを求めてきた。「新しい学び」という捉えではなくて、「本当の(真の)学び」が求められているという方向に発信していただくとうれしい。  
⇒長野県の先人が、子どもを大切に、暮らしを大切にやってこられた学びを、今、国で目指している。これまでやったことのない授業に踏み込まねばならず、大変だが、本当に大事なことを求めていることは何かをみんなで確認しながら前にお進みいただくと新校は素晴らしい学校になる。
- これからは、暗記だけでは絶対活きないと感じる。新校で先生がおっしゃっていたような学び(主体的で対話的な深い学び)ができれば、後輩たちにとって授業が楽しいものになるだろう。
- 探究していく中で新しい考えを持つこともできる。自分たちで新しい答えを導き出すことを楽しんで、いろいろな授業や勉強ができればよい。  
⇒授業でわからなかったことについて、自分で考え、悩み、調べ、友だちと議論するなどを繰り返すことは、大変だが楽しいだろう。大変なことが楽しいと思えるような学校になるとよい。
- 生徒たちは、やればやるほどわからないことが出てきて、とても苦しい思いをしている。生徒たちが苦しい時に「もう少しやる」という元気を出させる策があればご教示を。  
⇒まずは、探究が面白いと思えるようなことを、どんな形で段階的に進めるかであると思う。大人の真似ごとをするのではなく、生徒さんだからこそ発想する、面白い問い、意外な問いも大切にしたい。